海だく郷 島根町

松江市島根町
まち歩き散策マップ

ACCESS

JRで

岡山――松江　●150分（やくも）

飛行機で

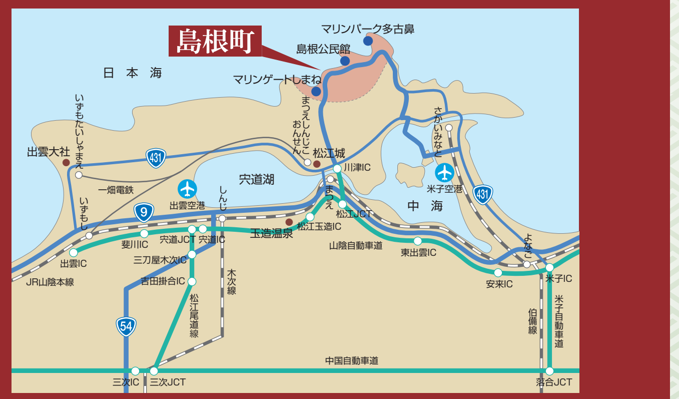
東京――出雲空港　●90分（日本航空）
東京――米子空港　●90分（全日空）

クルマで

山陰自動車道　松江JCTより……30分
米子空港より……60分
出雲空港より……60分
JR松江駅より……30分

バスで

JR松江駅よりバスにてマリンゲートしまね下車後、島根コミュニティバスに乗り換え
●島根コミュニティバス　TEL0852-55-5720


島根町
マリンパーク多古鼻
島根公民館
マリンゲートしまね
日本海
いずもたいしゃまえ
出雲大社
431
一畑電鉄
出雲空港
宍道湖
しんじ
まつえしんじこおんせん
松江城
川津IC
さかいみなと
米子空港
中海
まつえ
松江JCT
松江玉造IC
玉造温泉
9
斐川IC
宍道JCT
宍道IC
三刀屋木次IC
出雲IC
いずもし
JR山陰本線
吉田掛合IC
木次線
松江尾道線
山陰自動車道
東出雲IC
安来IC
米子IC
よなご
伯備線
米子自動車道
54
中国自動車道
三次IC
三次JCT
落合JCT

● お問い合わせ先 ●

松江市島根公民館
松江市島根町加賀1414
TEL0852-85-2301
（9:00―17:00／土・日・祝日休館）

マリンプラザしまね
TEL0852-85-9111

松江観光協会島根町支部
TEL0852-55-5722

作成：平成24年3月　改訂：平成29年1月
島根地区わがまち自慢発掘プロジェクト実行委員会

自然景観を巡る

1 須々海の洗濯岩　大芦楡木

大芦の須々海海岸に露出した擬灰岩、砂岩、泥岩などの積層が日本海の荒波に浸食され岩質の硬い部分が洗濯板のような波状を成した奇観。この地形は約6千年かけて形成され、幾重もの層が傾いているのは地層がたまった後に島根半島が隆起したためと言われています。海沿いの県道から眺めると、濃いブルーの海面に縞模様が映え、水平線に沈む夕日の美しさは格別です。

2 大芦浜　大芦浜

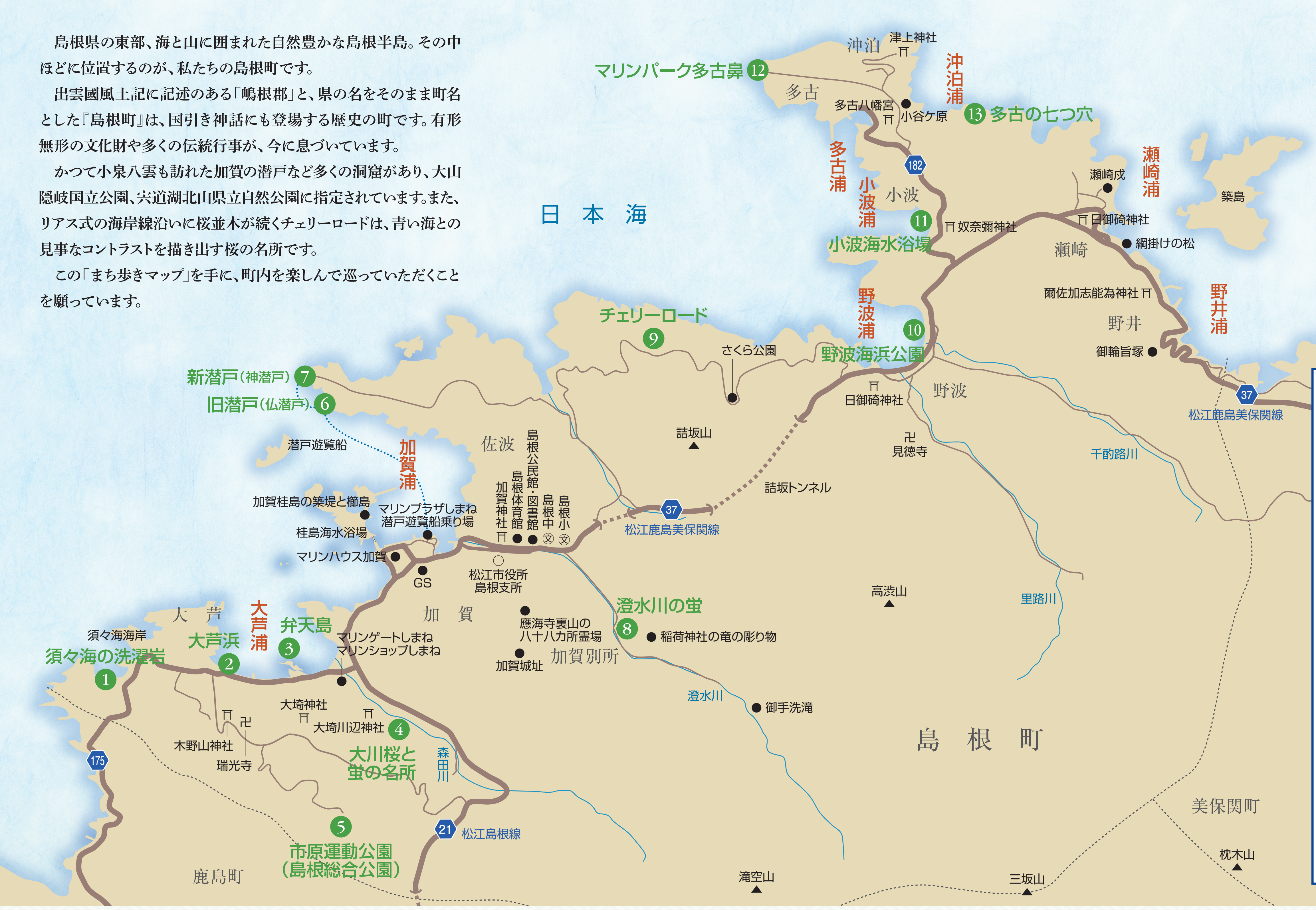
大埼神社下から楡木にかけて、白砂に波が打ち寄せる浜が続く。正面に黒島、馬島を望み、昭和30年代までは、イワシ網、アゴ（飛魚）・ボラ漁、ワカメ・天草刈り、地曳き網などが盛んで、浜一帯で天日干しにしました。荒れる日には、舟が据えられ、ひなびた漁村風景が見られました。遠浅の透き通った海は海水浴に適し、隣の小具の浜は近年、サーファーたちの歓声が響きます。

島根県の東部、海と山に囲まれた自然豊かな島根半島。その中ほどに位置するのが、私たちの島根町です。

出雲國風土記に記述のある「嶋根郡」と、県の名をそのまま町名とした『島根町』は、国引き神話にも登場する歴史の町です。有形無形の文化財や多くの伝統行事が、今に息づいています。

かつて小泉八雲も訪れた加賀の潜戸など多くの洞窟があり、大山隠岐国立公園、宍道湖北山県立自然公園に指定されています。また、リアス式の海岸線沿いに桜並木が続くチェリーロードは、青い海との見事なコントラストを描き出す桜の名所です。

この「まち歩きマップ」を手に、町内を楽しんで巡っていただくことを願っています。


日本海
マリンパーク多古鼻 12
沖泊
津上神社
沖泊浦
多古
多古八幡宮
小谷ケ原
13 多古の七つ穴
多古浦
182
小波浦
小波
11
小波海水浴場
奴奈彌神社
瀬崎浦
瀬崎戍
日御碕神社
綱掛けの松
築島
瀬崎
爾佐加志能為神社
野井
野井浦
御輪旨塚
チェリーロード
9
さくら公園
野波浦
10
野波海浜公園
日御碕神社
野波
37
松江鹿島美保関線
詰坂山
見徳寺
千酌路川
詰坂トンネル
新潜戸（神潜戸） 7
旧潜戸（仏潜戸） 6
潜戸遊覧船
加賀浦
佐波
島根公民館・図書館
島根体育館
加賀神社
島根中
島根小
加賀桂島の築堤と櫛島
マリンプラザしまね
潜戸遊覧船乗り場
桂島海水浴場
マリンハウス加賀
GS
松江市役所
島根支所
澄水川の蛍
8
稲荷神社の竜の彫り物
應海寺裏山の
八十八カ所霊場
加賀
加賀城址
加賀別所
高渋山
里路川
須々海海岸
大芦
大芦浦
弁天島
3
大芦浜
2
須々海の洗濯岩
1
マリンゲートしまね
マリンショップしまね
大埼神社
大埼川辺神社
4
大川桜と
蛍の名所
森田川
木野山神社
瑞光寺
175
澄水川
御手洗滝
島根町
5
市原運動公園
（島根総合公園）
21
松江島根線
美保関町
枕木山
鹿島町
滝空山
三坂山

海だく郷 島根町

おすすめコース

四十二浦巡り【島根町編】

島根半島には、古くから汐汲みをしながら浦々の神社を巡る「四十二浦巡り」といわれる信仰習俗があり、島根町内にも8つの浦があります。悠久の時を刻む島根半島の魅力を再発見してみませんか。

- 大芦浦（おわしうら）
- 約3.0km　車で7分
- 加賀浦（かかうら）
- 約3.7km　車で8分
- 野波浦（のなみうら）
- 約1.5km　車で5分
- 小波浦（こなみうら）
- 約1.0km　車で3分
- 多古浦（たこうら）
- 約1.8km　車で6分
- 沖泊浦（おきどまりうら）
- 約3.9km　車で12分
- 瀬崎浦（せざきうら）
- 約1.3km　車で4分
- 野井浦（のいうら）

自然景観を巡る

- ① 須々海の洗濯岩
- 約1.5km　車で3分
- ③ 弁天島
- 約2.2km　車で4分（マリンプラザまで）
- ⑥ 旧潜戸 ⑦ 新潜戸
- 約6.0km　車で9分（マリンプラザより）
- ⑨ チェリーロード（さくら公園）
- 約3.0km　車で5分
- ⑩ 野波海浜公園
- 約1.0km　車で2分
- ⑪ 小波海水浴場
- 約2.5km　車で4分
- ⑫ マリンパーク多古鼻
- 約1.5km　車で3分
- ⑬ 多古の七つ穴（沖泊港）

3 弁天島　大芦小具

大芦の小具湾内の島に鳥居、宮、自然石を積み上げた灯篭があり、石橋を渡って歩いて行けます。弁財天は本来、仏様の尊閣ですが、日本では神道の神ともみなされ、七福神の一員とされています。海神に農業神、穀物神が習合したと言われ、また元来インドの河神であることから、水辺や島、池など水に深く関わりのある場所に多く祀ってあります。

4 大川桜と蛍の名所　大芦

大芦・小具区を流れる大川（森田川）沿いの約1km間に平成20年3月「大川桜クラブ」の会員が八重桜150本を植え整備しています。夏には無数の蛍が乱舞する光景が見られ、新しい蛍名所として地域住民に親しまれています。

5 市原運動公園（島根総合公園）から大城山公園登山口までの景観　大芦

大芦の市原運動公園（島根総合公園）展望台から望む日本海は、彼方に隠岐島が望める絶好の景観スポットです。林道を行く途中に大木の「将軍桜」と、1株から6本の大きな幹が伸びる「天狗桜」があります。ヤマザクラより花の色が濃いのが特徴でここから眺める海と桜のコントラストが素晴らしく、時季には多くの見物客が訪れます。市原運動公園（島根総合公園）から約4kmの地点に大城山への登山口があります。

6 旧潜戸（仏潜戸）　加賀

洞内は広大で、船着き場からトンネルを歩いて入る。太古の昔、海人族の女神たちが幼いままで命絶えた我が子の亡骸を埋め、その上に小さい石の塔を積んだのが始まりとする「賽の河原」でもあります。幼子が「父恋し、母恋し」と泣きながら河原の石を集めては塔を積み上げると伝えられています。各地から訪ねて参る親たちも後を絶たず、供え物と石が積み上げられた薄暗い洞内は神秘的な雰囲気が漂っています。

7 新潜戸（神潜戸）　加賀

海食洞窟で洞内は広く、波が穏やかな日には観光遊覧船で探訪できます。出雲國風土記によると佐太大神の生誕地で、古くは加賀神社が鎮座し神域となっていました。洞門は大神誕生の際、母神が金の矢を射通して造ったと語り継がれる神話、ロマンを肌で感じるパワースポットです。文豪小泉八雲は「これ以上に美しい海の洞窟はそう考えられるものではない」と絶賛したと言われています。マリンプラザしまねから遊覧船が運航（3月～11月）しています。

8 澄水川の蛍　加賀別所

出雲國風土記にも紹介された加賀川が、現在の「澄水川」です。この川には3種類の蛍（ゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタル）が生息しています。6月初めから7月初めにかけて飛び交い、川口付近から上流に向かって約3kmの川面に舞う光景は幻想的で、多くの人が訪れます。一時、川の汚れ等で蛍の数が減少しましたが、復活を願う人々の働き掛けが実り、このところ徐々に増えつつあります。

9 チェリーロード　加賀佐波～野波

毎年春、加賀佐波から野波に至る海辺の市道沿いに、まるでトンネルのような桜並木が約5kmにわたって続きます。（昭和39年4月植栽）その数約700本、真っ青な空と海、そして桜の美しいコントラストが楽しめる観光スポットで、時季には町内外から多くの見物客が訪れてにぎわいます。平成22年春、ロードの一角に完成した「さくら公園」は、憩いの場として親しまれています。

10 野波海浜公園　野波

島根半島独特の冬の強い季節風と波浪から住民生活を守り、周辺の景観にマッチした快適な海岸をつくるため、15年の歳月をかけて整備されました。平成22年に完成した野波海岸に面したこの施設は、人工芝のスポーツ広場やシャワー室を併設したトイレ、緑地広場、駐車場などを完備。地域住民の憩いの場としてはもちろん、海水浴も楽しめる新しい観光施設として人気があります。

11 小波海水浴場　小波

透明な海水の砂浜が続く遠浅の小波湾で、ハマグリ獲りも楽しめる安全な海水浴場として毎年夏、家族連れなど多くの人が訪れます。キャンプ場、休憩所、シャワー、駐車場が整備されており、キャンプサイトは60張がオートキャンプ場として利用でき、県内外の若者たちに人気があります。

12 マリンパーク多古鼻　多古

島根半島の最北端・多古鼻の高台にある「天空の岬」。紺碧に輝く雄大な日本海を見下ろすように建つ15棟のキャビンからは、水平線から昇る朝日と沈む夕日、夜には一面に漁火の群れと満天の星空が見られ、自然の織りなす大パノラマを心ゆくまで満喫できます。設備が充実した芝生のキャンプサイトもあり、海の自然と触れ合える空間です。

13 多古の七つ穴　沖泊

沖泊の東約1kmにある断崖に開けた海食洞。沖から7つの洞門に見えることから、こう呼ばれます。U字型の長い洞窟奥に小砂利の渚がある大洞窟、年中コウモリの棲む奥の枕木穴、石橋のごとき鼻繰り穴などもあります。洞内は真夏でも冷気を覚え、洞口から射し込む幽玄な薄明かりと不気味に反響する物音は鬼気迫る情景です。マリンプラザしまねから遊覧船（3月～11月）が就航しています。

史跡・神社・仏閣を訪ねる

14 木野山神社

大芦浜

楡木、浜、小具区の神社。本山は岡山県高梁市にあり病気平癒。邪鬼退散等に霊験あらたかで、地元の人たちは親しみを込めて「きのやまさん」と呼びます。明治20年代に猛威を振るったコレラ病の平癒を願い、本山から分霊して祀ったと伝えられます。境内から大芦湾が一望でき毎年7月6日に例祭が行われます。御神体は、今も3地区の各戸が持ち回りでお守りしています。

15 瑞光寺

大芦浜

臨済宗妙心寺派。山号は龍興山。大芦浜区の高台に建ち大芦湾が間近に望めます。1655（承応4）年、松江市・萬寿寺の龍関和尚を招請して開山。幾度の火災に遭い、現在の建物は1863（文久3）年に再建されました。本堂に本尊聖観音像、境内には昭和初期に地区住民有志によって創設された新四国八十八カ所が寺を取り囲んでいます。同寺第10世山崎大耕和尚は京都大本山相国寺で修行、後に相国寺派最高位の管長を務めました。

16 大埼神社

大芦浜

楡木、海鳥区の氏神。佐太神社の祭神・猿田彦命の母神の母坂大明神であるとされており、「母坂さん」とも呼ばれています。また現在は統合により廃校になりましたが、古くから隣接する大芦小学校の守り神として崇敬されてきました。毎年10月29日に秋季例大祭が営まれ、能神事が行われます。

17 大埼川辺神社

大芦小具

浜、小具、北垣、垣之内、別所区の氏神で、「国主さん」とも呼ばれます。祭神は国産み・神産みの神「伊邪那岐命」で、出雲國風土記には「大埼川邊社」と記されています。境内から日本海が望め、例大祭は毎年11月1日に行われます。鳥居の脇の石垣に巨岩があり、宮の前の大川には馬の背の形をした御乗馬石（通称：おんまさん）があります。

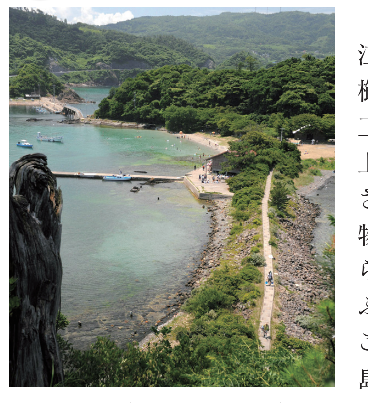
18 大城山（大平山）

大芦

海抜502.8m。松江では大平山と呼び、頂上に古城跡の土台が残っています。毛利軍から追われた尼子軍が広瀬（安来）の月山から法吉（松江）の真山城に逃れて大城山に移り、毛利軍に味方した加賀軍に敗れたと伝えられています。周囲に将軍谷、奥谷に千人塚、高渋山（大城山の出城）等の地名が残っています。大城山、小城山にかけて登山道が整備され、絶好のハイキングコースとなっています。

19 加賀桂島の築堤と櫛島

加賀

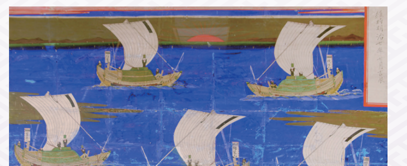


1790年（寛政年間）頃、松江藩によって造られた桂島と櫛島を結ぶ長さ324mの人工防波堤。幅は底が27m、上の面で9m、水底からの高さは平均で3.6m。松江の産物を加賀港に集め、ここから大阪や北陸方面に船で運ぶために造られたものです。これ以前の江戸時代にも、島根半島の東端・美保関と西端・宇竜（出雲市大社町）に次ぐ北前船の避難港、また水や物資の補給港として重要な役割を果たしていました。

20 加賀神社

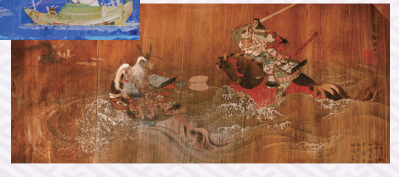
加賀

出雲國風土記によると、加賀神崎の潜戸内に祀ってあったものを後に陸地に移したとあります。海上安全の神様として広く信仰があり、拝殿内には港町として栄えたことを示す大きな絵馬が掲げてあります。戦う武者の姿を描いた「武者絵馬」や帆船を描いた「船絵馬」など8点で、特に北前船を描いた船絵馬は縦1m、横1.76mと大きく、当時の船乗りの信心深さと羽振りの良さを示唆しています。（㉟と関連）



船絵馬

川中島の戦い



21 應海寺裏山の八十八カ所霊場

加賀

約660年前の南北朝時代に建立され、1595（文禄4）年に現島根小学校裏山から加賀城跡地の現在地に移ったと伝えられます。1822（文政5）年、裏山の弥山に八十八カ所霊場を安置。1889（明治22）年の大火で本堂、庫裏、観音堂等を焼失し詳細は不明ですが、この霊場は四国八十八カ所霊場の一番から八十八番まですべての寺院から石を分けてもらい、それを帆船で運んだと言われています。

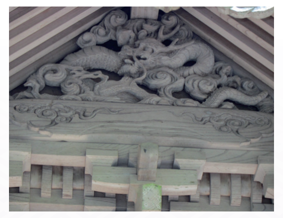
22 加賀城址

加賀

應海寺裏山の弥山山頂に築かれた城。島根町誌には、敏達天皇の子孫に当たると言われる楠木正成の曾孫加賀左馬頭正栄（橘三郎正栄）が築いたと記述されています。尼子・毛利の戦いの中、毛利軍に従った加賀城主は幾つもの合戦をくぐり抜けて城を守ってきましたが、いつしかなくなったようです。城跡には「琴平さん」が祀られ、静かに時の流れを見守っています。寺の境内には城主夫妻の墓があります。

23 稲荷神社の竜の彫り物

加賀別所



加賀別所の稲荷神社は、古書によると「京都の宮内・大内義孝外2名がやってきて京都伏見稲荷神社より御分霊を受け、正一位の階位を授かり、櫛屋の里の小氏神として仰ぎ奉った」とあります。以降、明治時代の遷宮の時、松江の名工・石川政右衛門により社殿全体に幾重にも組まれた斗組や竜の彫り物が施された豪華な建物で、密かな人気スポットになっています。

24 日御碕神社

野波

海沿いに連なる170戸の集落の西端にあり、建速須佐之男命と、姉神の天照大御神が祀られています。1909（明治42）年に地区内の2社が合祀されて以来、例大祭（10月24日）のほか、御田植祭（1月7日）、祈念祭（4月11日）、神幸祭＝ガッチ祭（10月23日）、新嘗祭（11月25日）など年間を通して祭礼や伝統神事が行われ、住民連帯の寄りどころとなっています。（㊴と関連）

25 見徳寺

野波

野波の臨済宗南禅寺派の寺院で、山号は峯輝山。創建は約600年前とされるが、火災によって記録が焼失し定かでない。現在の本堂は1897（明治30）年に建てられたもので、当時の名工・石川政右衛門の手により本堂前御拝に咬龍の彫刻、左右に麒麟獅子と牡丹亀の彫り物等が施されています。境内には戦国武将・末次氏2代の墓がひっそりと建っています。（㊲㊵と関連）

26 奴奈弥神社

小波

小波区を一望できる高台に建つ大己貴命を主祭神とする神社で、通称「国主さん」と呼ばれ、10月25日に例大祭が営まれます。また境内に「お伊勢さん」と呼ばれる小宮があり、毎年2月に行われるお伊勢祭りでは、神のお告げによって豊漁の日を定める「祈り日」神事が今も続いています。（㊱と関連）

27 多古八幡宮

多古

創立年代は不詳だが、口碑に伝わるところによると、津和野城に仕える家老職だった多胡外記左衛門丞が分霊を別の場所に迎えて祀ると勧請したものであるとされています。左衛門之丞は浜田市三隅町の三保浦から船でこの地に帰着し、祭神・誉田別命を鎮めたと言います。石段を112段上った高台に多古集落と港を見守り抱くように建っています。

28 小谷ケ原

沖泊

沖泊にある神仏習合の社。神秘の地に霊力ある神がすむと伝えられ、地元の人たちは「こたんがぁさん」と呼んでいます。昭和28年に本堂が建立され、日蓮上人七幸竜神、多古霊神が祀られています。七幸竜神は小谷ケ原の真向かいにある枕木穴にすんでいたと言われる竜神多古霊神は毛利・尼子の合戦で戦死したと伝えられる多胡左衛門尉辰敬であるとされています。今も5月と9月の6日にお祭りがあります。

29 津上神社

沖泊

沖泊の港を一望する高台に建つ。多古八幡宮と同じく津和野城家老職・多胡外記左衛門丞が浜田市三隅町の八幡宮から分霊を迎えたとされ、海上安全の神として崇められています。祭神は誉田別命と瀬織津彦命で、毎年10月16日に例大祭が行われます。

30 日御碕神社

瀬崎

瀬崎の氏神。出雲市大社町の日御碕神社の御分霊を迎えたものと言われ、古書によると「延長6年、小野（宮司）家60世の高光が、神夢により伯耆国、野津ノ庄の仮住まいを引き揚げ、美保関から海路日御碕に帰郷する途中、瀬崎浦に風波を避けて寄港した。その際、里人の願いにより日御碕大明神を勧請した」と伝えられています。毎年11月8日にお祭りがあります。

31 綱掛けの松

瀬崎

鎌倉末期、隠岐島へ配流されていた後醍醐天皇が1333（元弘3）年、伯耆国の名和一族を頼ろうと配所を脱出する際、瀬崎の殿浦に寄港。その折、乗ってきた船の「とも綱」を繋いだ松と言われています。

32 爾佐加志能為神社

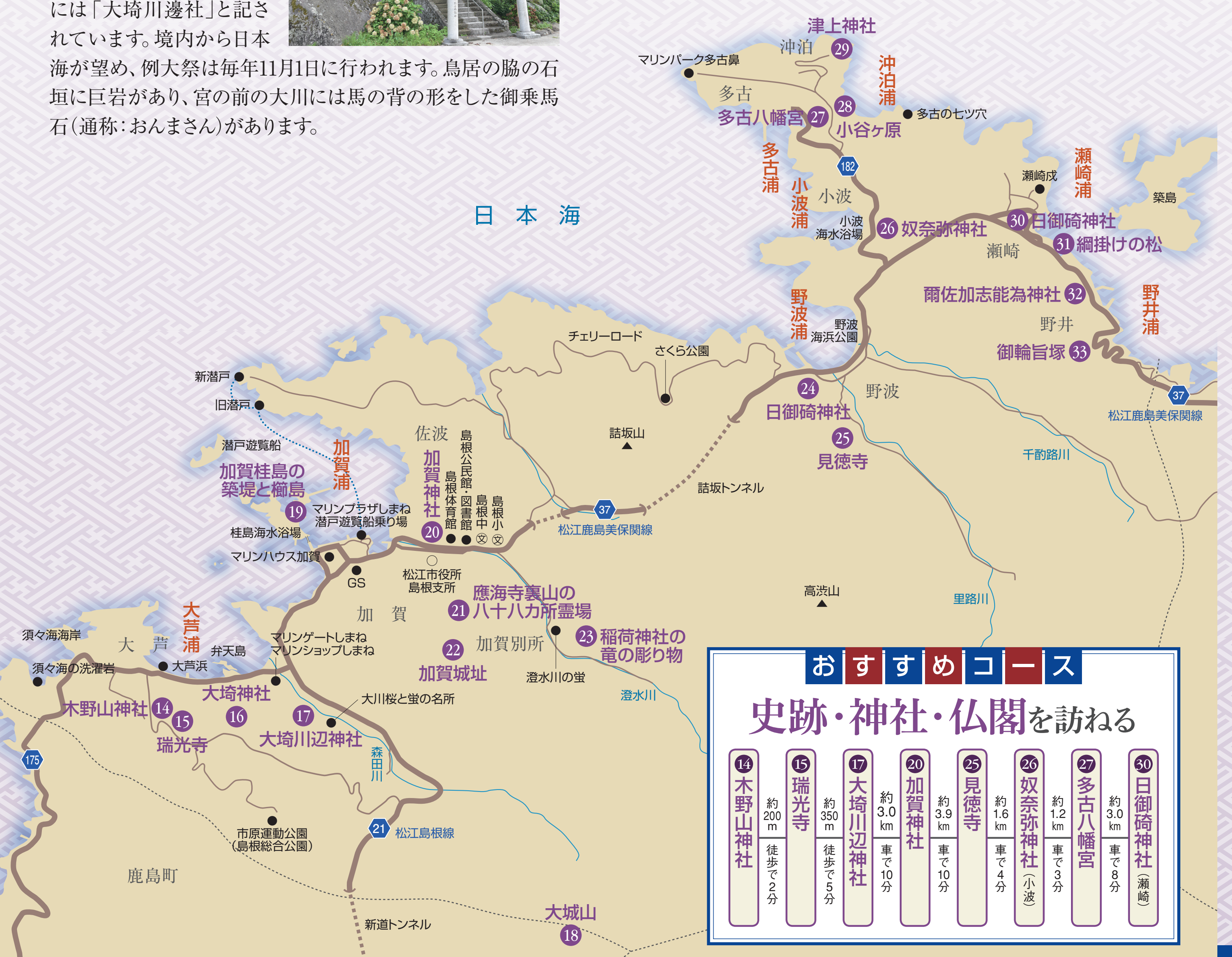
野井

延喜式、出雲國風土記にも登場する古社で、祭神は大己貴命、天照大御神。港を見下ろす高台に社殿があり、境内から沖に浮かぶ「築島」が望めます。昔は築島の続きにある加志嶋（梶島）に鎮座していましたが、1034（長元7）年の大風で吹き流されたのを機に現在地に移されたと言われています。鳥居をくぐって参道を進むと、右奥に巨岩があり、独特の雰囲気を醸しています。毎年10月27日に例大祭が行われます。

33 御輪旨塚

野井

古書によると、後醍醐天皇が隠岐から潜行の折、瀬崎の殿浦に寄港された。天皇は忌中のため喪に服していた隣の野井の地頭・宮本又右衛門に食事を所望されたが、又右衛門は不浄の身と言って断った。しかし、天皇は『服喪も27日にもなればもうよいではないか』と許されたとあります。その際、後醍醐天皇が腰掛けられたと伝えられる石が、又右衛門の子孫・村上家（野井・村上眞吉氏宅）の庭先にあります。



おすすめコース

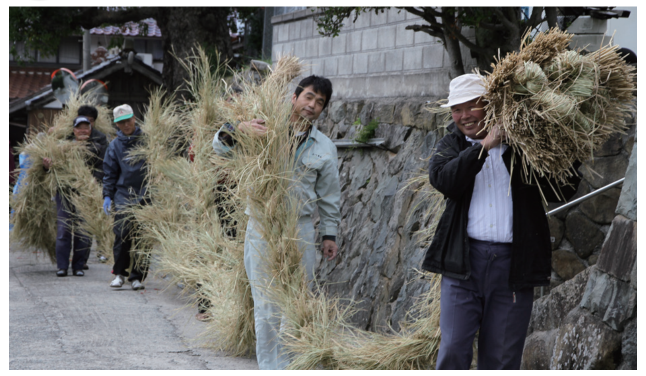
史跡・神社・仏閣を訪ねる

⑭木野山神社
約200m 徒歩で2分
⑮瑞光寺
約350m 徒歩で5分
⑰大埼川辺神社
約3.0km 車で10分
⑳加賀神社
約3.9km 車で10分
㉕見徳寺
約1.6km 車で4分
㉖奴奈弥神社（小波）
約1.2km 車で3分
㉗多古八幡宮
約3.0km 車で8分
㉚日御碕神社（瀬崎）

伝統行事・祭りを見る

34 荒神祭（ちいーなまいた）

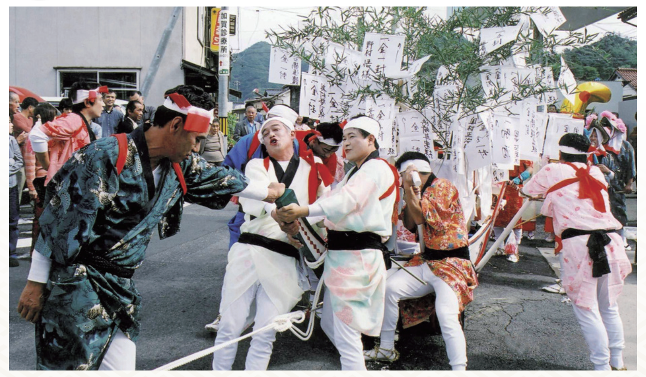
大芦



収穫に感謝し、稲藁で「大蛇綱」を作る秋の行事。毎年9月～11月に大芦の各区で行われています。新藁で八つ頭のある直径10cm～15cm、長さ10m～50mの綱を3つにより綯い、中ほどに子ばらみをこしらえて御神酒をかけます。これを住民で担いで荒神山の神木に巻き付け、神官に御祈念してもらいます。昔は子ども達が綱を隠そうとし、それを取り返そうとする大人との争奪戦が繰り広げられました。大蛇（オロチ）を作る時、「巻いた、巻いた」の掛け声で綱をうったことからこのように呼ばれています。

35 曳船神事

加賀浜



加賀浜地区で、20年に一度ある加賀神社の遷宮に繰り出す昔ながらの神事。車輪の付いた木造船に4本の笹を立て、中に恵比寿様に扮した男の人が乗っています。若衆が白粉で化粧し、女物の肌襦袢、男帯、パッチ、足袋を履いた粋ないでたちで、この船を曳いて神社を出発。ほとんど軒並みに家の前で止まり、『伊勢音頭』の太鼓、三味線に合わせて「チョーサ、チョーサ」と掛け声も勇ましく町内を練り歩きます。

36 伊勢神宮祭

小波

小波の奴奈弥神社境内の「お伊勢さん」と呼ばれる小宮で毎年2月11日に行われる「折り日」神事。良い漁がいつあるか、神のお告げによって決める習わしです。三方に盛った白米の上に月日を書いた紙片を何枚も載せ、宮司が幣串をさばいて紙片に触れると、紙が幣串にひっついて上がってくる。その紙に書いてある日が折り日で、1日ぐらいの前後はあるものの、昔から不思議と良く当たるそうです。

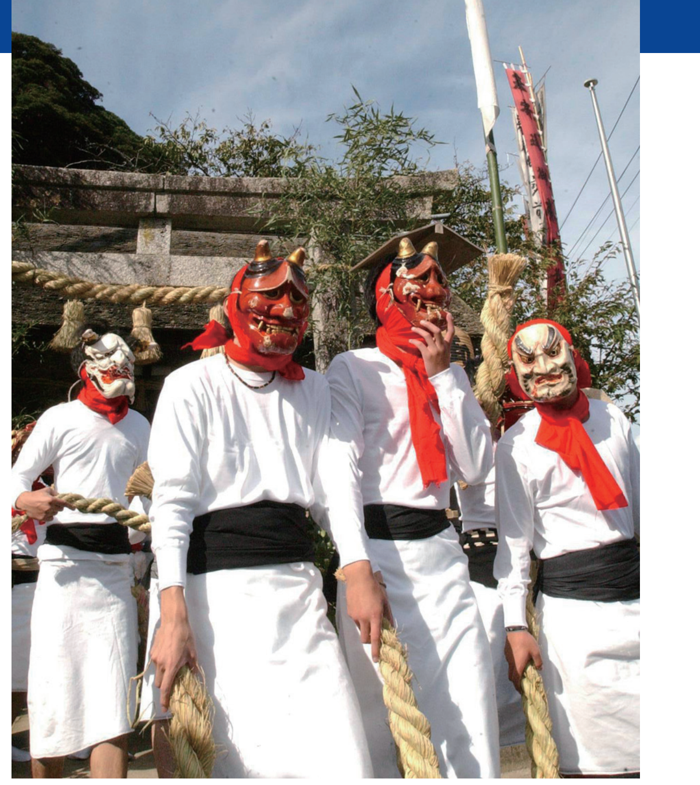
37 お大師さん

野波

野波区で毎年4月21日、各家に祀ってある弘法大師像を5軒ぐらいずつ宿に持ち寄ってお祭りをしています。明治以降、大切に受け継がれている行事で、見徳寺を1番とし10カ所余りの各宿を四国霊場八十八カ所の札所に見立て、所在を示す道端の小旗を目印に巡礼する地区民や子供たち、また縁側で接待する人たちの和やかな笑顔が広がり終日にぎわいます。

38 正月の宮練り

新年を祝う正月行事。そろいの法被を着た若者たちが神輿を担ぎ、『若松』の歌に合わせて「チョーサ、チョーサ」と地区内を練り歩きます。若衆が威勢よく浜辺で神輿を練る様は豪快そのもの。沿道では大勢の住民が見守り、その年の無病息災と豊漁、豊作を祈ります。小具、加賀別所、野波、小波、野井、瀬崎、多古、沖泊区などで今もにぎやかに行われています。



39 ガッチ祭り

野波

野波の日御碕神社例大祭前日の10月23日、合祀された日吉神社跡地への還行神幸祭が行われ、神輿2基の行列が往復します。この神幸祭を清祓する役を「ガッチ」と呼び、藁で作った「シボ」で人々を叩いて清めます。御神酒の酔いも手伝いにぎやかに地区内を走り回ることからこの名が付いたと言います。主役の「ハナ」、次に「シシ」が続き、各種の面や赤布を被った「ガッチ」が、逃げ惑う子供たちを追い回す光景が珍しくテレビ等でもよく紹介されます。

40 数珠繰り

野波

野波の見徳寺本堂で、毎年「二十日正月」に108の珠が繋がった大数珠を広げ、輪になった善男善女が念仏鉦に合わせて「ナンマイダー」と唱えながら回します。大玉が巡ってきた時は、額に当てて無病息災を祈ります。地区の繁栄を願う大切な行事として100年以上続いていますが、現在の主な回し手は保育園児と近所のおばあさんたち。その年の区長が鉦をたたき、子供たちに土産を渡します。

41 盆踊り・花火大会

盆踊りは、盂蘭盆（8月13～15日）に霊を迎え、送るための「念仏踊り」が起源とされますが、現代は宗教色が薄れ、夏祭りイベントの一つとなっています。ひと昔前は校庭などにやぐらを組み、大勢の人が月明かりの下で夜通し踊っていましたが最近は各区ごとに実施されています。花火は13日に大芦、14日に野井・瀬崎区合同で打ち上げられ、夏の夜の風物詩として住民や帰省客を楽しませています。

42 島根町大漁節

松江地域伝統芸能祭 in 島根

漁師が大漁を祝い、浜で酒を酌み交わしながら威勢よく歌った「旗御舞節」を起源とし、島根半島全域で歌われていました。昭和60年代に野井区の同好会が船と地引き所作を取り入れ、主に町内で披露していました。その後、島根町大漁節保存会が結成され、平成23年には全日本民踊指導者研究集会の普及曲に採用され、CDが発売されました。また静岡県で開催された民踊集会に町内から数名が派遣され指導に当たるなど、今や全国版になりつつあります。